

明日で令和3年度の教育活動が終了する。野田中学校に通うようになり、まもなく1年となる。一言で通勤と言っても、4月、5月は何だか慣れないというか固定化されていないような気がした。それが徐々に行動パターンが決まってきたルーティンができていった。

この1年でつくり上げたルーティンについて説明する。毎朝、6時25分に、決まったコンビニエンスストアに立ち寄る。店に入る。懐からスマートフォンを取り出す。何の迷いもなく牛乳が置いてあるコーナーに向かう。いつも同じ牛乳を手取る。それをレジに持っていく。水戸黄門の葵の御紋の如くスマホを差し出し、支払う。

これが、私の行動である。この牛乳購入のルーティンには、コンビニの店員さんも参加している。最初は、牛乳をレジに持っていくと、「ストローをお付けしますか」と聞いてもらっていた。「はい、お願いします」といつも答えていた。

それが、いつの頃からか、私が牛乳をレジに出すと、何も言わずともストローが出てくるようになった。次に、これもいつの頃からか、牛乳をレジに出す前に、正確には牛乳を手にした私がレジに向かうとストローが準備されるようになった。その次はというと、私が牛乳コーナーに向かう段階でストローがレジ台に用意されるようになった。そして、最終段階である。私が店に入ると、レジ台にストローが置かれるようになった。

段階を踏みながら、私と店員さんによるルーティンは出来上がってきたわけである。こうなるということは、毎朝同じ店員さんだということである。この店には、レジが2か所ある。私が店に行く時間帯は、いつも同じ店員さんである。そういうシフトなのであろう。年配の方と少し若い方のお二人である。私のルーティンに参加いただいているのは年配の方である。いつの間にかそうなった。

たまたま年配の方がレジにいない場合は、仕方なく若い方のレジに行く。すると、どうなるか。ちゃんとストローは出てくる。タイミングが遅いというだけである。お二人には、私は牛乳を必ず買う人として登録されているのであろう。では、お二人ともレジにいる場合はどうするか。迷わず年配の方のレジに向かう。

年配の方は、私がレジに行き、台に牛乳を出すと「はい」、スマホを提示すると「はい」の二言しか言葉は発しない。それで十分である。店員さんと牛乳を買う客との阿吽の呼吸である。もしかしたら、私の黒い車が駐車場に現れたタイミングでレジにはストローが出ているのかもしれない。そうだとすると私には確認ができない。かといって、聞いてみるのも変な話である。だが、本当は聞きたい。想像してみしてほしい。店内には誰もお客さんがいないのに、レジには1本のストローだけが置いてあるのである。ここまですれば、我々のルーティンも完成である。

実際の会話はなくても、私は店員さんとこんな会話をしている感覚がある。「いつもストローを準備していただきありがとうございます。牛乳しか買わなくてすみませんね」「いえいえ、いつもありがとうございます」こんな感じだろうか。

実は、たまにだが、牛乳以外にもおにぎりなどを買いたくなることもある。だが、それをやってしまっただけでは、レジの方のリズムを崩すようで、何か裏切るようで、なかなかできない。では、どうするか。どうしてもおにぎりも買いたい朝は、別のコンビニに行く。これも裏切っているようで心苦しい。